

第11回中央区スポーツ協会会長杯 少年野球交流大会特別規則及び注意事項

1 大会特別規則

- (1) トーナメント戦とし、3位決定戦は行わない。
- (2) 各試合とも6回戦とし、1時間30分を過ぎて新しいイニングに入らない。
 - (ア) 決勝戦も同様とする。
 - (イ) 後攻チームが勝っている状況で制限時間に達した場合は、その時の打者の打撃中にその旨を両チームに通告し、この打者が打撃を完了して試合終了とする。
 - (ウ) 暗黒・降雨などで試合続行が不可能な場合は、次のとおりとする。
 - (a) 5回終了または、試合開始から1時間30分を経過した場合は、試合成立とする。但し、同点の場合は決勝のみ再試合とし、それ以外の試合は抽選により勝敗を決する。
 - (b) 5回に満たず試合開始から1時間30分を経過していない場合は、競技者必携の特別継続試合の規定は適用せず、すべて再試合とする。
- (3) 6回を終了または制限時間が過ぎても勝敗が決定しない場合は次のとおりとする。
 - ① 決勝は、延長戦を行わずタイブレークに入る。
 - ※タイブレーク
 - (ア) タイブレークは競技者必携57ページにより、1イニングを行い、得点の多いチームを勝ちとする。なお勝敗が決定しない場合は、抽選により勝敗を決する。
 - (イ) 規則によって認められる選手の交代は許される。
 - ② 上記以外の試合は、タイブレークは行わず抽選により勝敗を決定する。
 - ※抽選方法は競技者必携254ページによる。
- (4) 5回終了時点で7点差が生じた場合はコールドゲームとする。ただし、それ以前の大差の場合、両監督による協議のうえ試合を打ち切ることがある。
- (5) 変化球については、競技者必携61ページによる。
- (6) 投手の投球数制限について
 - ① 肘・肩の障害予防のため、1人の投手が1日に投球できるのは70球以内とする。
 - ② 70球に達した場合、その打者が打撃を完了するまで、又は打撃を完了する前に攻守交代になるまで投球できる。投球制限には、タイブレークの投球数を含む。
 - ③ 1度降板した投手は、70球に達するまでその試合やその日の試合に再登板できる。
 - ④ 投手の投球数には牽制球や送球とみなされるものは数えず、実際に打者へ投球した球数とする。
 - ⑤ 4年生以下は1日60球以内とする。
 - ⑥ 同一日に本大会と別の試合を実施するチームは、球数を合算するため大会本部へ申告しなければならない。

2 用具（バット・捕手防具・ヘルメット）について

- (1) 金属、ハイコン（複合）バット、打者、次打者、走者のヘルメット及び捕手のマスク、プロテクター、レガースは「J S B Bマーク」のついた公認のものを使用しなければならない。
- (2) 捕手用ヘルメット及び打者、次打者、走者のヘルメットは「SG マーク」のついた公認のものを使用しなければならない。但し、捕手用のマスクについては、本年度においても義務づけを緩和する。
- (3) 競技者必携72ページ及び73ページの規定に反するグラブは使用できない。

3 安全対策

- (1) 素振り用リングは抜ける危険があるので持ち込みを禁止する。（グラウンドに持ち込まない）
- (2) 捕手は危険防止のため、必ずマスク（スロートガード付）・プロテクター・レガース・ヘルメット・ファールカップを着用すること。（控えの捕手とブルペン捕手も同様とする）
- (3) 打者、次打者、走者及びベースコーチとも両側にイヤラップの付いたヘルメットを着用すること。
- (4) ボールボーイ、バットボーイもヘルメットを着用すること。

4 塁審

帯同審判制とし、必ず各チームより2名出すこと。

- <1日2試合> 第1試合＝第2試合から。 第2試合＝第1試合から。
- <1日3試合> 第1試合＝第3試合から。 第2試合＝第1試合から。
第3試合＝第2試合から。
- <1日4試合> 第1試合＝第2試合から。 第2試合＝第1試合から。
第3試合＝第4試合から。 第4試合＝第3試合から。
- <1日5試合> 第1試合＝第3試合から。 第2試合＝第1試合から。
第3試合＝第2試合から。 第4試合＝第5試合から。
第5試合＝第4試合から。

※ 決勝は、連盟審判員の3審制で行う。

※ 試合の記録については、各試合の帯同審判員4名の内の1名が当たる。（決勝を除く）

5 試合開始時間

1試合目 8：30 2試合目 10：15 3試合目 12：00

4試合目 13：45 5試合目 15：30

※ ただし、同一チームの試合が連続する場合は、次の試合を30～60分程度遅らせる。

※ 第2試合以降のチームは開始時刻の60分前までに会場に集合し大会本部へ到着を届け出ること。

※ 打順表の提出は、第一試合のチームは試合開始予定時刻の30分前までに提出する。

なお、第二試合以降のチームは前の試合の3回終了時までに提出し、攻守を決定する。提出枚数は5部とし、控え選手もフルネームで記入する。その際、各チーム試合球を2球ずつ提出する。

打順表と登録名簿の照合後、会場責任者と審判員の立会いのもと速やかに攻守を決定する。

6 補助員について

- (1) 投球数をカウントするための補助員（20歳以上）を各チーム2名ずつ選出すること。
- (2) 第一試合のチームは開始予定時刻の30分前までに、第二試合以降のチームは前の試合の終了後直ちに会場本部に集合して打ち合わせをしてください。

<役割>

- ① 守備チームの補助員…投手の投球数をカウントして記録する。
 - ② 攻撃チームの補助員…カウントの補佐。
- ※ なお、攻守交代の際に役割も交代する。

7 その他の注意事項

- (1) ベンチ内での携帯マイクの使用は禁止する。メガホンは監督のみ使用を認める。
- (2) 礼儀に反するような行為はつつしむこと。（言動、鳴り物、携帯マイク等）
- (3) 抗議できる者は、監督か当該プレイヤーのみとし、規則適用上の問題に限る。
- (4) ベンチは、組み合わせ番号の若い方を1塁側とする。ただし同一チームが2試合続く場合はこれにあらず。
- (5) ボールボーイは各チームから2名出すこと。（登録選手以外又は大人でも良い）
- (6) シートノックは行わない。
- (7) 監督は、アピールや選手交代などをする時は、その身分を明らかにするために、グラウンドコートを脱いで申し出ること。（背番号の確認）
※監督のタイム及び攻撃のタイムは監督のみとし、コーチやその他の者が代理することはできない。また、選手が伝令として伝えることもできない。
- (8) ホームベースのサイズは一般社会人のサイズと同じものを使用する。
- (9) 試合前のアップ時は、フリーバッティング、ハーフバッティング、ティーバッティングを禁止する。
- (10) 各イニングの先頭打者とイニングの途中で投手が交代した後の先頭打者はその投手の準備投球が終了するまでネクストバッタースボックス内で待機し、球審の合図でバッタースボックスへ向かうこと。
- (11) 試合中に控え選手等がベンチを出て守備練習を見守ること及び、ネクストバッタースボックス内の選手以外の者が投手の準備投球に合わせて素振りをするのを禁止する。
原則として、試合に出ていない選手はベンチ内にいるようにする。

8 大会の中止及び順延について

- (1) 試合の有無については、試合前日の午後4時までに決定し、午後4時以降に各チームが
テレホンサービスで確認してください。 テレホンサービス ☎025-245-4189
※早起き野球と兼用のテレホンサービスのため、最後まで音声を確認してください。
- (2) 順延の場合は、日程が決まり次第、連絡責任者に連絡します。
- (3) 予備日までに順位が決定しない場合は、その時点で残ったチームによる抽選とします。